

SSKU
お元気ですか?
イリアンソス
です。

2012
秋



<このみ ハロウィンの仮装づくり。思い思いの衣装ができました。>

- 社会福祉法人イリアンソス
- のぞみの家
東久留米市下里2-7-18
042-473-9027
042-473-9036(F)
nozomi@iriansos.or.jp
 - 活動センターかなえ
東久留米市南沢2-20-51
042-451-0252
042-451-0262 (F)
kanae@iriansos.or.jp
 - なかまの家
東久留米市中央町2-1-47
042-472-7130
042-444-3722(F)
nakama@iriansos.or.jp
 - 生活寮「うみ」「そら」
東久留米市下里4-2-7
042-476-3400(F 兼)
sora@iriansos.or.jp
 - 生活寮「にじ」「かぜ」
東久留米市下里5-10-10
042-420-9943
kaze@iriansos.or.jp
 - このみ
東久留米市幸町3-8-23
042-423-9667

理事長の散歩道

特集

年に一度の宿泊旅行
～それぞれの取り組み～

連載 がんばれイリアンソス⑦

大山 智子さん

理事長の散歩道



理事長の散歩道 ②

社会福祉法人イリアンソス
理事長 磯部光孝

ひとのやらないことをやる

「環境」はこのみの活動を通して、わたしが学ばせていただいた大事な視点です。これは前号でお話しさせていただききました。その「環境」と同じくらい大切な視点が、「ひとのやらないことをやる」ということです。30年前に障害児の幼児の通園施設である「わかさ学園」の先生たちと「このみ」の事業を立上げたとき、モデルはありませんでした。障害のある子どもが困っているから、家族が困っているから、絶対必要なことだからという熱い(その当時は)想いだけでした。当時、親ががんばれば良いという風潮や兄弟が我慢すれば良いということがたくさんありました。そうした中で、同じ子どもとして家族として当たり前に暮らせるように、障害児もその兄弟も支援しようと事業をはじめました。のちに緊急一時保護事業とかレスパイト事業といわれ、いまでは当たり前になりました。「ひとのやらないことをやる」の視点は、この法人でも引き継いでいるとわたしは思います。たとえば、障害の重い方のグループホームの立上げであり、そのことで入所施設から地域に戻る利用者を受け止めることが可能になりました。

した。また、さまざまな事業が当法人の傘下に入っていたとき、法人及び障害福祉の基盤を少しでも強くすることが出来ました。まだまだ障害福祉は、成長しなければなりません。これからも「これでいい」とか「これ以上はできない」ではなく、障害のある人が同じ人として生きていくために必要なことをやっていく法人でありたいと思っています。

震災支援でも

30年前「このみ」での事業をやり始めるころ、わたしたち親でも関係者でもない第三者(障害児を育てている家族ではない)が障害のある子どもやその家族を支援することに対して、「親を甘やかせるのでそんな活動はやらない方がいい」といわれました。

実はその言葉が、東日本大震災の支援でも聞かれました。震災支援については、JDFE(日本障害フオーラム)の呼びかけで取り組みました。内容は義援金の取り組みや被災地への支援活動といった内容です。被災地支援については、若い職員に行ってもらいたいと思ったのですが、支援活動は「週間以上の場合が多く事業の運営上難しく、わたくしが代表で行かせてもらいました。

その言葉は、「家族の介護力を弱める」という内容です。わたしたち被災者支援で宮城県に入り、移動支援などのお手伝いをしたのですが、行政からその言葉が出てあまり支援しすぎないようにといわれました。被災されたばかりで、行政も混乱していたのだろうと

思ったのですが、実は地域における障害福祉がまだ発展途上であることが分かりました。わたしたちは、つい東京の現状だけを見て障害福祉の水準を考えがちですが、地方では障害福祉はまだまだ遅れています。日本全体で考えても、大都市では水準が高いけれども地方都市では低いのが現状ではないでしょうか。そうなると国が考える制度は、現在の経済状況を考えると低い方に水準を合わせていきます。東京の水準では決してありません。そして、障害福祉は東京の水準が到達点でもありません。そういう意味でも地方の福祉も豊かになつていかないとこの国の福祉は豊かにはなりません。今回、被災地へ行かせていただき、こうした地方の情報もみなさんと共有したいと思っています。ぜひご意見をお願いします。



10月・11月は気候も良く外に出るには最高の季節といつていいのではないのでしょうか。イリアンソスでもこの時期に旅行を計画する事業所が多いです。

今回はそんな旅行の様子をお伝えします。紹介するのは「活動センターかなえ・だるま班」と「のぞみの家・元気なたんぽぽ班」です。仕事を共にする仲間との旅行。楽しみにしたり、少し緊張したり。：。普段の活動ではみられない皆さんの姿がたくさんあります。

各事業所でも様々な工夫をして旅行に取り組んでいます。楽しむための準備や計画は各事業所でも異なるようです。準備から当日のようすまでを写真たっぷりで紹介したいと思います。



「のぞみの家「元気なたんぽぽ班」
「元気なたんぽぽ班」は、その名の通り元気な班です。男性4名女性4名の計8名の仕事に遊びに全力な仲間です。

たんぽぽ班は、2〜3年は続けて同じ場所に行きます。今年を含め3年間は新潟県津南町に行っています。プールに入ったり、夕食のバイキングでは蟹を食べたり、広大なホテルの敷地内を散歩したりしました。たくさん動いて美味しい物をたくさん食べる！！

これがたんぽぽ班の旅行です。

○準備
目で見てイメージできるように、模造紙に旅行の写真を貼ったものを用意して、旅行の間前から部屋に貼り出しています。早いから旅行の話をする、旅行が待ちきれなくなってしまっているので、話し合いは旅行の前をきつてからにしています。

具を見ながら「旅行楽しみですね」と会弾みます。



年に一度の宿泊旅行とそれぞれの取り組み



○大切にしていること
目で見てイメージできるよう、写真をたくさん使います。
部屋に貼られた写真を見ながら旅行の話題に花が咲いたりしています。

○当日のようす
旅行中は皆さん弾ける笑顔です。仕事で見られる笑顔は、頑張っていることを仲間から認められての照れ笑いや、得意気な笑顔などが多いですが、旅行中は心の底から楽しく弾けた笑顔が見られます。「こんな笑い方見たことない！」とスタッフも初めて見る笑顔がたくさんあります。
仲間との旅行を経験していくことで初日から緊張している表情が減り、始めから「楽しむぞ！」と満面の笑みの方が増えました。初めていく場所であっても「毎日、活動している仲間と一緒に大丈夫だな」と安心して楽しんでる姿が見られます。



○たんぼ班にとつての旅行
前向きに進むためのガソリン?!
楽しみを励みに、楽しかったことを思い出して、目の前のことに前向きに取り組み、日々がより充実したものになります。
のぞみの家 職員



5合目で記念撮影

活動センターかなえ「だるま班」
「だるま班」は、動きも大きく元気いっぱい
の男性5名女性2名計7名の班です。
だるま班では、毎年富士山方面へ旅行に行
つていきます。旅行では主に、富士山に登るこ
とを目的として、毎回計画しています。
まず大切にしていくことは、見通しをしつ
かり持てるように環境づくりをして、旅行を
楽しむ、ということです。

○大切にしていること
見通しを持ちやすいようにする取り組み
として、毎年違うところに出かけるのではな
く、同じ場所に宿泊しています。同じ場所に
続けていくことで、見通しを持って楽しむこ

○準備
旅行に行く前の準備として、活動の中で旅
行に行くことを、みんなでお話しをしています。
前日に創作活動の時間を設け、旅行先の絵
をみんなに描いてもらっています。しおりを
見たり、観光先のパンフレットを見たりして、
イメージをしながら絵を描きます。描いたも
のを発表しながら、旅行の日程の話をして
います。旅行のイメージをしながら描くこと、
それを使い一つひとつ丁寧に話しをすること
で、旅行全体の見通しがしっかり持てるよう
心がけています。



のぼるぞ～



とができるように取り組んでいます。だるま
班には、初めての場所が苦手な方もいます。
旅館だけでも同じところに行くことで、安心
感を持って旅行に行くことができ、新しく行
く観光先でも楽しむことができているように
思います。



お手!

○当日のようす
宿泊先は、毎回だるま班で貸切にしてもらっています。他の人がいないため、それぞれのペース・好きな場所で過ごせるので、みんなとてもリラックスして過ごすことができます。
夕食では、和食やフレンチのコース料理などを食べることができ、普段の生活ではなかなか経験できない料理を食べることができます。夕食後は、カラオケをしています。周りを気にせず大きな声で歌う人、広間で踊る人、楽しみ方もそれぞれです。



あともう少し

○だるま班にとつての旅
だるま班では、毎年富士山に登っています。富士山に登る目的は、大自然を体で感じること、登山をすることで達成感を感じること、です。
富士山に登るには体力が必要です。体力づくりの取り組みとして、普段から活動に「歩く」ことを取り入れています。ウォーキングに出かけることもありですが、仕事として、チラシ配りや広報配りなどを取り入れ、仕事をしながら体力作りができるようにしています。
始めたころは、歩くことが苦手だったり、すぐに疲れてしまったりと、長い時間歩くことが難しい方もいました。何年も「歩く」活動が続けてきたことによって、みんな1時



間近く散歩できるようになってきています。また、楽しみの一つにもなってきているように思います。
普段からの活動を生かし、日本一の山である富士山で景色を見たり、普段では感じることのできない自然を全身に感じながら、登山を楽しむことができるように、取り組んでいきたいと思っています。
活動センターかなえ 職員

がんばれ イリアンソス！シリーズ⑦ 「粘土を、通じて」

大山智子

2010年の4月から、陶芸を通じてお世話になることになりました。思い返せば、25歳になる息子がまだ1歳の時、保育園の親つながり、障がい者施設とのかかわりがはじまりました。

当時まだ、杉並実習所だったころ、陶芸の講師にとのお話が始まりでした。初めは何もわからず、ただ陶芸をやっているということだけでした。ひたすら、がむしゃらにやっていたようです。でも、はじめから、そして今も変わらず感じることは、彼らが、とても個性が強く、そして、限りなくピュアである人々として目に映り、驚きと、時には感動さえも与えてくれました。

その間、二人の子供の出産を挟み、今年で25年になりますが、「なかまの家」のお話があったときに、20年以上の経験があれば何とかなるだろうと思いましたが、いやいや現実はその甘くはありませんでした。彼ら一人ひとりの障害の違いや、その個性の強さにびっくりし、そして、職員への対応の違いにも、同じろぎながら、あらためて難しさを実感しました。日々彼らと、粘り強く、生活を共にしている職員の方々や、ボランティアの方々には

頭が下がるばかりです。考えれば、25年といっても、私は月にたった2回、それも2時間ずつだけで、まだまだ、経験不足なのだと思います。

そんな中でも、彼らと向きあう時感じるころがあります。ピュアな彼らに、まるで鏡のように自分の心が映るのです。そして、心を通われている。だから、絶対に手抜きは出来ない、いつも思っています。それは粘土と向きあう時と、まったく同じで、気を抜いたり、手を抜いたりすると、そのまま結果になってできません。ただ言えるのは、粘土はとても柔軟なのです。その柔軟さが彼らとの付き合いをスムーズにしてくれていると思います。ただ柔軟すぎて、なかなか形になりにくい点があり、作品を考えたときは、問題が山積みですが彼らの豊かすぎる個性を、粘土の柔軟さがカバーしてくれて、かわりが成り立っているようです。作品作りということでは、まだまだ課題が多い陶芸です。作品作りばかりが陶芸だとは思いませんが、利用者の方々には負担をかけることがないように、粘土の柔軟さに助けられながら、みんなが「よかった」と言える作品作りができればと考えています。

ています。

最後に、子育てでも感じたことですが、子供たちが教えてくれたこと、そして、利用者の方々に教えていただいたこと、それは社会のあり方だと思えます。人間として、素直に助け合う姿がそこにあり、素直に人として接することが、多くの解決糸口になるということでした。そして、子どもたちや、障がい者と呼ばれる方々が、日々生き生きと生活できる社会になった時、すべての人々が生き生きと暮らせる世の中になると思えます。そのためにも東久留米では、イリアンソスの役割はとても大きいと思えます。がんばれ！イリアンソス。

今後とも、よろしくおねがいします。そして、ありがとうございます。



法人行事

くろてん

『リサイクル久留店』

のぞみの家 チャレンジ班が中心となって、手作りケーキなども販売しています。

◎日程：12月6日(木)20日(木)

◎場所：滝山団地センター前広場

※雨天中止 気温によって中止・開催時間短縮の場合もあります。

『のぞみの家作品展』

◎日程：2012年12月17日(月)～20日(木)

◎時間：10～00～17～00 (20日は16～00まで)

◎場所：スペース105 (東久留米市役所向かい)

ケーキ・コーヒーマも販売します。

『わたしたちの作品展』

活動センターかなえ・なかまの家で、日々取り組んでいる、とう芸・絵画・さきおり・手芸・リースなどの作品を展示しています。ぜひ見に来て下さい。

◎日程：2013年1月16日(水)～18日(金)

◎時間：10～00～17～00 (16日は13～30から)

◎場所：スペース105 (東久留米市役所向かい)

ご寄付をいただきました。

(8月末まで)

法人各施設にご寄付をいただいております。誠にありがとうございます。

いただいたご寄付は法人各施設の充実や、将来構想の資金として大切に使用させていただきます。

藤田 祐子様
イトーヨーカドー

ザ・プライス滝山支部様

ありがとうございます。

表紙の写真

このみでは、その季節に合った遊びを取り入れています。10月31日はかみがさんと優友さんと、合同でハロウィン行列に参加しました。市役所の障害福祉課の方にご協力頂き、お菓子をもらう行事を今年初めて試みました。写真は、その際に使う衣装作りをしているところです。とっつてもにぎやかな行事となりました。

《 発行 》

特定非営利法人 障害者団体定期刊行物協会
〒157-0073 東京都世田谷区砧 6-26-21
Tel 03-3416-1698 Fax 03-3416-3129

《 企画、編集 》

社会福祉法人 イリアンソス
〒203-0043 東京都東久留米市下里 2-7-18
Tel 042-473-9027 Fax 042-473-9036

《 編集委員会 》

池田苗生子・磯部光孝・金野博志・多田由美
田中沙樹・矢島正樹・吉田遊佑



定価 100円

編集後記

夏の残暑も少しやわらいできた今日この頃、秋色も次第に深まってまいりました。夏祭りや夕涼みなどのイベントごとにも楽しくみながら参加することができました。次はバザーですねと話が出ています。寮では、ショートステイにたくさんの人々が来て頂き、色々な発見がある日々を送っています。徐々に使ってくださる皆さんにも慣れ始め、一人ひとり少しずつですがわかり始めました。私事としては、とうとう結婚ラッシュを友達を迎えはじめ結婚式の準備やお祝いに忙しさを覚えていきます。高校時代から慣れ親しんだ友達の結婚はめでたいことですが、少し寂しい気持ちもあり複雑な心境です。今年ももうすぐ終わりですが、来年も頑張っていきたいと思えます。

生活寮にじ 田中沙樹